

ニ ク ニ

長岡市立科学博物館報

No. 106 2022



N K H

106号

2022年3月

目次

令和3年度企画展・特別展	1
令和3年度熱中！感動！夢づくり教育推進事業 実施報告	5
児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」「自然科学写真展」...	10
ネイチャーセミナー	11
令和3年度事業報告	12

表紙写真

開館当時の「御山の博物館」外観イラスト

令和3年(2021)は、科学博物館開館70周年の記念の年でした。「御山(おやま)」の名で親しまれていた悠久山公園内にあったことから「御山の博物館」の愛称で呼ばれました。

記念展示の準備の中で、当時の案内リーフレットや解説書に使われていた画像を手掛かりに、建物の正面外観をイラストで再現しました。また、当時を知る元博物館職員から聞き取りを行って、色の再現も試み、ポスター等に活用しました。作業を進めるうち「長岡科学博物館」と書かれた出入口のアーケードのような部分が、後の写真には写っていないことが分かりましたが、改修時期についての資料は見つかりませんでした。

(植物研究室 櫻井幸枝)

表紙デザイン：本間正三

解説ノート (63)

「スナビキソウ *Heliotropium japonicum*」



スナビキソウは北海道から九州北部にかけて砂浜に生育している多年草で、砂の中を地下茎が長く這う様子から「砂引草」の名がついたとされています。

砂浜に点々と株になって生えていて、高さは30cmくらいになります。5～8月頃、茎の先端に直径8mmほどの花がぼつぼつと咲きます。花の先は5つに分かれ白色で、中央のみ黄緑色をしています。果実は外側がコルク質で海水に浮くことができ、海流に流されて散布されます。

海岸は、強い風が吹きつけ、飛んでくる砂が植物を傷



つけたり埋めてしまうこともある、植物にとって過酷な場所です。海岸でくらす植物たちは背を低くし、葉を厚くし、砂の中に茎や根を長くのばして、この場所で生育しています。

令和3年(2021)夏に「みんなのうた」で流れていた「スナビキソウ」の歌詞からは、厳しい環境の中でも花が咲き実を結ぶ逞しい草の様子が浮かんできます。

市内海浜で撮影(2021年8月)。

(植物研究室 櫻井幸枝)

令和3年度 企画展・特別展

科学博物館開館 70 周年記念展示「長岡市立科学博物館 70 年のあゆみ」

展示概要

科学博物館展示室で開催し、前期 5 月 1 日～6 月 27 日（うち 5 月 15 日～6 月 14 日は感染症拡大防止のため臨時休館）、後期 7 月 6 日～8 月 31 日、期間中の入館者数は前期 1,420 人、後期 3,358 人、合計 4,778 人でした。

悠久山公園内に昭和 26 年（1951）に開館してからのあゆみを、70 年間をおよそ 10 年ごとに 7 つに区切り、各時代ごとの出来事や取り組みを紹介し、それに関連する資料を展示しました。また、さいわいプラザに移転してから、これまでの実績を受け継ぎつつ進めていく博物館活動と新たな取り組みを今後の展望として紹介しました。

トピック展示では、学芸員が研究室ごとに話題を提供し、関連する資料を展示しました。

また、期間中は常設展示室の資料の一部に 70 周年記念展示の関連資料であることを表すパネルを設置し、企画展示室と常設展示室をあわせて記念展示を行う形をとりました。この展示から、博物館のあゆみの中で、さまざまな博物館資料が伝えられてきたことを、見てもらうことができたと思います。

主な展示資料

・「御山の博物館」案内リーフレット

博物館が開館した昭和 26 年（1951）に使われていた案内リーフレットには館の外観が印刷されています。リーフレットはその後、館の外観が印刷されており、外観の変化をたどることもできるものです。

・総合展示「信濃川の自然と生活」関連資料

柳原分庁舎に移転後の昭和 58 年（1983）、長岡の歴史や自然、文化を伝える総合博物館としての新たな取り組みとして、複数部門により構成する総合展示が設けられました。当時の展示と同様に、信濃川と人の生活、信濃川の生物を紹介する資料を展示しました。

・総合調査とカラーガイドブックシリーズ

博物館活動の一環としてスタートした総合調査は、まず柿川で 3 年間かけて実施され、その成果をまとめたカラーガイドブック「柿川」が平成元年（1989）に発行されました。総合調査はその後、悠久山、信濃川、東山、西山と長岡市の各所で実施され、それぞれガイドブックが発行されました。

・科学博物館開館 50 周年関係資料、火焰土器高精細レプリカ

博物館が開館 50 周年を迎えた平成 13 年（2001）、火焰土器が博物館に寄贈されました。開館 50 周年を記念して開催された特別展の図録と、体験学習等で活用されている、形状だけでなく重量も本物の火焰土器と同じレ

プリカを展示しました。

・ハンズオン資料（ワラグツ、鳥の羽根、アクリル封入タネ標本）

さいわいプラザに移転後、これからの博物館の新たな取り組みについて紹介し、その一例として、近年導入を進めている、手にとって学びを深める「ハンズオン資料」の例を紹介しました。

・開館当時の絵葉書等（常設展示室の関連資料）

博物館が開館した当時の、5 枚 1 セットの記念絵葉書には、外観の他展示室内のようすが写っていました。

常設展示室のこの絵葉書に「70 周年記念展示関連資料」のパネルを設置しました。

関連イベント

開館記念日となる 8 月 1 日から 3 日間、来館者に記念品（オリジナルブックマークルーペ）を配布しました。



展示風景



展示風景

（展示担当：学芸係）

第11回長岡藩主牧野家の至宝展—九代藩主牧野忠精と京都の文化—

展示概要

科学博物館企画展示室で10月1日～10月31日まで開催し、期間中の入館者数は2,417人でした。

元和4年（1618）に誕生した牧野氏長岡藩は、明治3年（1870）に至る250年あまり続きました。牧野氏をキーワードとして歴史を探ることは、江戸時代の長岡人が育んだ豊かな歴史文化の情報を知る手掛かりとなります。今回の特別展では、上越地方に伝えられた長岡藩9代藩主牧野忠精（1760～1831）ゆかりの資料に加えて、長岡の歴史を大切に思われる市民のみならずから御提供いただいた長岡藩ゆかりの貴重な資料10点を公開しました。

京都所司代として京都御所の再建に功績をあげた牧野忠精は、光格天皇（在位1779～1817）からすばらしい品を拝領しました。その品の一部が今回初公開した「花鳥十二月御手鑑」や「六歌仙之御手鑑」です。朝廷としては、幕府や忠精に感謝の気持ちを伝える伝え方はいろいろあったことと考えられますが、和歌を忠精に贈ったことは、忠精が和歌の意味を理解できる、すぐれた教養人であると朝廷が評価していたという、長岡の歴史にとってたいへん重要なことをあらわしているものと考えられます。さらに、和歌を書いた一条右大臣忠良など、当時の一級の文化人の筆跡や、手鑑のみごとな装丁は、目にも見事に映るものであり、また、忠精を支えた長岡の人びとにもどのように鑑賞されたのかを想像する楽しさなど、さまざまな点に注目していただいたようです。



一条右大臣忠良書（「花鳥十二月御手鑑」より）

主な展示資料

・「花鳥十二月御手鑑」

鎌倉前期の歌人として名高い藤原定家が『拾遺愚草』中巻に「詠花鳥和歌各十二首」として収載した24首をもとに、一条右大臣忠良ほか、寛政度の宮中一流の文化人が書したもの。

・「六歌仙之御手鑑」

『古今和歌集』仮名序に論評された、小野小町や大伴黒主など、平安初期の6人の和歌の名人が詠んだ歌を、転法輪前内大臣実起ほか、寛政度の宮中一流の文化人が書したもの。

・牧野忠精筆台書附

「六歌仙之御手鑑」などを載せる台として忠精が特別にあつらえさせたもので、これらの品々が寛政12年（1800）に朝廷から拝領したものであることと、拝領の喜びをあらわした「去年の冬よりこの春に至り御事繁き折ふしつかへまいらせ彼是とことのし奉り御よろこひ思めさるゝとて」という文を金泥で書きつけています。

・牧野忠精画・賛「雨龍」

忠精67歳ころの作。画技や詩作にすぐれた一面を紹介。

・牧野忠精画「茶器ほか」

忠精が茶道宗徧流と和歌に精通していた一面を紹介。

展示協力・後援先等

本展では、貴重な資料を御提供いただいた山崎治氏の御家族、鈴木昭英氏、佐山富栄氏、森岡愛子氏、中村正司氏にたいへんお世話になりました。記して感謝申し上げます。



展示風景

（展示担当：歴史研究室 広井 造）

如是蔵博物館資料展—野本互尊をめぐる長岡の風景—

展示概要

科学博物館企画展示室で11月19日～12月26日まで開催し、期間中の入館者数は1,724人でした。

如是蔵博物館は、長岡を代表する文化人の一人、野本恭八郎（互尊 1852～1936）の没後、野本の思想に深く共鳴した日本互尊社の人びとを中心として昭和14年（1939）に設立されました。以後、長岡の歴史文化を愛する多くの人びととともに、戦争という厳しい現実とも真摯に向き合い、また、戦後の社会や価値観の大きな変化とも向き合いながら資料の収集・保存・公開に努め、長岡の魅力を発信し続けてきました。

令和元年、公益財団法人日本互尊社から如是蔵博物館の寄贈を受けた長岡市は、科学博物館等を会場として、同館が守り伝えてきた長岡ゆかりの資料の保護・活用に全力で取り組んでいます。

今回の特別展では、旧如是蔵博物館伝来資料のうち、簡易修復を完了した、日本画家 水島爾保布（1884～1958）が描いた野本互尊・長岡ゆかりの風景など8点を展示しました。

主な展示資料

・「榎峠・鉄坂（くろがねざか）の茶屋」

水島爾保布画 昭和25年（1950）作 絹本

長岡藩士の江戸勤番交代道中、榎峠・鉄坂（長岡市妙見町付近）のようすを描いたもの。

画面右手の茶屋をさらに右手（南方向）、長岡藩領南東端の浦柄村、横渡村を通り、野辺川を越えてさらに三国街道を進む先は江戸。榎峠・鉄坂付近は、故郷長岡を離れ、江戸へと向かう決意を固める地であり、また、江戸の勤番を無事終え、たくさんの土産話とともに故郷長岡へと帰ってきたことを実感する地でもありました。



互尊社の庭で語らう野本互尊と山本五十六

一方、この地は、慶応4年（1868）の北越戊辰戦争では激しい戦闘地域となりました。そうした歴史的事件をふまえて、野本互尊と山本五十六を崇敬した人びとや水島爾保布は、かつてののんびりとした長岡の風景の一角を思い起こしながらこの作品を伝えたのかも知れません。

令和3年度修復。縦171.3×横357.8cm。

・「互尊社の庭で語らう野本互尊と山本五十六」

水島爾保布画

山本五十六（1884～1943）は、野本互尊の互尊主義に共鳴しました。特に、野本が自分の財産は天から預かったものだとその全部を社会教育事業に投じたことを尊敬し、長岡帰省の際は野本を訪問して歓談し、ともに庭園を散策するのが常だったといわれています。

現在、野本の没後から80年余りの年月が流れ、庭園のすがたが大きく変化してただけに、本作品で描かれた庭園のようすは、往時の庭園のすがたを偲ぶ貴重な資料といえるでしょう。

画面に描かれている野本が精魂を込めて整備した庭園は、意外に質素に見えるかも知れません。しかしそのことは、豪爽快活・剛健質樸の精神を大切にしてきた長岡らしい情景と見事に調和し、さらには、野本と山本の表情からは、己を律し、他者を敬い、日本の行く末あるべきすがたをともに語らう、長岡人のまじめでひたむきなすがたがうかがえます。

令和3年度修復。本紙 縦44.2×横52.8cm。

展示協力・後援先等

本展は、貴重な資料を御提供いただいた旧公益財団法人日本互尊社の御厚意により実現したものです。記して感謝申し上げます。



展示風景

（展示担当：歴史研究室 広井 造）

長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展

展示概要

科学博物館企画展示室で令和4年2月18日～3月13日まで開催し、期間中の入館者数は1,647人でした。

本展は平成26年（2014）から毎年開催し、今回は8回目となります。人形や道具の展示点数は約100点です。

牧野家のおひなさまは、牧野家に嫁がれたお姫様やその姉妹、母上、祖母ゆかりの品々で、古いものでは江戸時代後半、新しいものでは牧野忠昌氏（長岡藩主牧野家17代 長岡市立科学博物館名誉館長）のお母さまが持参された品で約100年前につくられたものです。

私たちの先祖は、たいへん美しく精巧につくられた数々の御人形、小さなものですが形や材質など実物そっくりにつくられた御道具を通して、着物の着装の仕方、お道具の揃え方や使い方、ひな人形やお道具の飾り方や扱い方など、さまざまなことを学び、伝えてきたことでしょう。そうした観点から、長岡ゆかりの牧野家のおひなさまをじっくりと御覧いただき、日本の伝統文化を大切に守り伝えていくことを創造していただくということが本展の趣旨です。

主な展示資料

・「押絵雛」

明治から昭和初期にかけて活躍した日本画家 木村武山（1876～1942）作の背景画に、長岡藩第12代藩主牧野忠訓（1844～75）の夫人牧野 彝が押絵雛を合わせて作られたもの。武山は長岡藩牧野家の親戚、常陸笠間藩牧野家が治めた笠間の出身で、数点の作品を長岡藩牧野家に伝えています。

・「立雛図」

牧野忠昌氏の母、牧野元子（はつこ）氏の作。飾られた人形や道具が大多数を占める中で、描かれたおひなさまとして大いに注目されました。

関連イベント

本展は、越後長岡ひなものがたり実行委員会（事務局：一般社団法人長岡観光コンベンション協会）主催の第15回「越後長岡ひなものがたり」（令和4年2月17日～3月9日）の関連事業として開催しました。長岡駅周辺の店舗等で披露されたひな人形等とともに本展を楽しまれた来館者が多数いらっしゃいました。

展示協力・後援先等

本展は、牧野忠昌氏の御協力により実現したものです。記して感謝申し上げます。



展示風景

（展示担当：歴史研究室 広井 造）

令和3年度 熱中！感動！夢づくり教育推進事業実施報告

長岡市では、子どもたち一人一人の個性や能力をのび、学ぶ意欲を引き出すことを目的に「熱中！感動！夢づくり教育推進事業」を実施しています。

令和3年度科学博物館では9事業を実施しました。また、このほか寺泊水族博物館では「移動水族博物館」、「バスで水族館ドキドキ体験」、馬高縄文館では「縄文出前授業・体験学習」を実施しました。

令和2年度に引き続き、各事業で新型コロナウイルス

感染症対策を行って実施しました。一般的な感染予防対策のほか、職員のマスクの着用、使用器具等の消毒、3密回避を徹底するとともに、参加者にも感染防止対策への協力を呼び掛けました。なお、寺泊水族博物館で実施予定だった「親子わくわく魚ランド」は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、本年度は活動を休止しました。

1 博物館の先生がやってきた

事業概要

当館の学芸員が得意とするテーマを中心にメニューを構成し、依頼のあった保育園・幼稚園や学校を訪れ、学習支援を行います。令和3年度は6種類の固定メニューと、個別要望に対応するオーダーメイドのプログラムを実施しました。昨年度に比べて学校の利用件数が増加したのは、年度当初から感染対策を考慮して利用を検討する流れができたためと考えられます。昨年度に引き続き感染防止対策としてメニューの休止は行わず、活動時間短縮、内容の一部変更、クラスやグループを分けて実施するなど、各メニューで対策を行いました。

実施プログラムと参加者数

メニュー	部門	利用実績
学校で楽しむ草木あそび	植物	8校11件 425人
さわってみよう昔の道具	民俗	3校3件 206人
さぐってみよう 学校の周りの歴史	歴史	3校3件 133人
しらべてみよう 小林虎三郎		3校3件 147人
こん虫をさがそう	昆虫	6園6件 202人
クワガタムシ・カブトムシの ひみつ		12園15件 322人
オーダーメイド 「悠久山の自然あそび」、「悠久山 の植物」、「『にじのこの里』で四季 の草木に親しむ(春・秋)」	各 部門 担当	2校5件 142人
合計18園19校46件1,577人		

2 バスで行く科博見学・体験学習

事業概要

授業に科学博物館の利用を取り入れてもらえるよう、長岡市内の小・中学校（一部高等学校含む）向けに、学校と博物館間を市のバスで送迎します。また、来館時に展示解説や体験学習プログラムを用意し、様々な形式での学習支援を行っています。本年度は9月から11月の期間で実施しました。

実施一覧

学年	人数	実施メニュー	担当者
4年	26人	長岡の歴史 長岡の生きもの	広井 櫻井
合計1校1件26人			

実施内容

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体験学習プログラムの休止や館内消毒の徹底を行いながら実施しましたが、利用は1件のみと、昨年度よりも大幅に減少してしまいました。

利用件数減少の理由としては、昨年度は授業計画を組んだ後にコロナ対応に追われたのに対し、本年度はコロナ対応をふまえて授業計画を組むことになったため、学校側の利用控えが目立ったことが挙げられます。

本事業は本来、博物館がバスを用意することで、遠方の学校の来館を促進するものでしたが、長時間の団体でのバス移動が感染リスクの面から障壁となり、これまでの利点が活かせなくなった結果、利用の減少につながりました。新型コロナウイルスの流行が続く中、遠方の学校に博物館をどのように利用してもらうか、あるいは、どうすれば利用しやすくなるか、こうした視点から引き続き考えていくことが課題と言えます。

3 みんなで作ろう 縄文の森の昆虫図鑑

事業概要

馬高・三十稲場遺跡と藤橋遺跡の「縄文の森」の昆虫相を調べます。身近な自然で昆虫インベントリー調査の基本（観察・採集・標本作り・種同定・記録と整理）を学び、実践を通じて科学的に地域の環境を見つめる発展的なプログラムです。

実施一覧

実施日	会場	参加人数
5月31日	馬高縄文館	中止
6月13日	藤橋歴史の広場	26人
6月27日	馬高縄文館	30人
7月22日	藤橋歴史の広場	25人
9月23日	馬高縄文館	32人
10月10日	藤橋歴史の広場	11人
合計 124人		

実施内容

馬高・三十稲場遺跡と藤橋遺跡はともに長岡で見られる典型的な里山環境が広がっており、生活に隣り合った身近な自然を調べるには好適な場所です。昆虫が多く活動する午前中に観察と採集を行い、午後からは標本作りと種同定にチャレンジしました。

季節を変えながら同じ場所を観察していくことで各種昆虫の発生活長を追いかけることができます。春から秋まで根気強く採集を続けると、ひとつの環境であっても驚くほど多様な昆虫が暮らしていることが分かります。限られた特定の時期にだけ観察できる昆虫もいるので、根気強く綿密に調べていくことがインベントリー調査のコツと言えるでしょう。

昨年から継続して参加している参加者の中にはかなり採集・標本作りの技術が向上した児童・生徒も見られ、自分が楽しむだけでなく初学者へ積極的にアドバイスを行っている様子も見られました。教える側に回ることによって新たに気づくことも多いものです。互いに切磋琢磨しながら昆虫への興味を深めていってもらいたいと思います。

採集や標本作りの基本的な技術が身につくと、次に課題になるのは種同定（名前調べ）です。多数の文献を読み解く力と豊かな経験が必要ですが、気になる分類群から少しずつ取り組んでみてください。

(昆虫研究室 星野光之介)

4 縄文体験教室

事業概要

本教室は、史跡馬高・三十稲場遺跡での縄文体験を通じて、縄文人のくらしと技術を楽しく学びながら、縄文文化への関心や学びを深めることを目的としています。

馬高縄文館の展示室を見学後、縄文時代の狩りの道具である弓矢体験、装飾品のまが玉づくり、煮炊きに用いた縄文土器づくりなどの体験を行いました。

実施内容

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策として定員を例年の半数とした上で、昨年の応募状況を考慮し、小学校5・6年生向けの体験教室のほかに、小学校4年生を対象とした縄文入門教室を新たに設けました。

オリエンテーション、展示・遺跡解説を経て、各日ごとに以下のプログラムを実施しました。

①縄文体験教室 1日目 7月24日(土) 9:30-15:30

午前：植物観察、アングレン編み体験、縄文服着用体験
午後：縄文土器づくり

②縄文体験教室 2日目 7月25日(日) 9:30-15:30

午前：植物観察、縄文土器づくり

午後：黒曜石の矢じりづくり、まが玉づくり、弓矢体験

③縄文入門教室 8月8日(日) 9:30-12:15

まが玉づくり、縄文楽器づくり、弓矢体験

※小学校4年生対象、2グループに分けて交代で実施

参加人数

本年度は各日10名で募集を行いました。縄文体験教室13校17名、縄文入門教室7校9名の参加がありました。縄文体験教室2日目、縄文入門教室への申し込みで抽選を行い、特に縄文入門教室では70名も申し込みがありました。

7/24(土) 7名	7/25(日) 10名	8/8(日) 9名
5年生 3名 6年生 4名	5年生 3名 6年生 7名	4年生 9名

事務局・スタッフ

小熊博史(科学博物館館長)

小林 徳・櫻井幸枝(科学博物館学芸員)

野水宏美・早見歩美(馬高縄文館専門員)

子どもたちは、体験プログラムを通して他校の生徒との交流を深め、充実した体験教室を過ごせたと思います。

最後に、送迎や募集等ご協力いただきました保護者や学校関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

(馬高縄文館 早見歩美)

5 発見の部屋—ミュージアム・ラボ—

事業概要

博物館が所蔵する実物資料を用いて、学芸員と一緒にさまざまな「ふしぎ」を探求する体験型セミナーです。活動を通じて、子どもたちの発見を促し、知的好奇心を育むことを目標としています。今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、活動時間の短縮、定員の削減等を実施しながら、2つのテーマで開催しました。

実施テーマと参加者数

テーマ	実施日	参加者数(定員)
木の芽生えを見てみよう	11月23日(祝)	19人(10組)
鳥の羽を観察してみよう	12月12日(日)	16人(16人)
合計35人		

実施内容

木の芽生えを見てみよう

木の命の始まりが芽生えと知っていても、目にする機会はなかなかありません。まず、いろいろな芽生えのアクリル標本を手にとって観察するところからスタートし、芽生えは成長した木とは違う姿をしていることを実感してもらいました。次に、ドングリの芽生えを観察して、ドングリが芽生えになるまでの間にどのように変化していくのかを一緒に考えてみました。小さな芽生えに潜む不思議を実感してもらえたと思います。

鳥の羽を観察してみよう

鳥たちがもつ“羽”、その構造は昆虫の“翅”とは全く異なります。また、色や形も鳥の種類や体の部位によって1枚1枚異なっており、いろいろな視点から観察することができます。そんな羽をじっくり見てみようというプログラムです。真っ白なハクチョウの羽やヤマドリ長い尾羽、ペンギンの羽毛等、様々な鳥の羽をみんな実際に触りながら観察してもらいました。

中でも参加者の興味を特にひいていたのが、クジャクの羽の色変え実験でした。クジャクの羽は構造色といって光の反射により緑色に見えていますが、水に浸けると屈折率が変わり赤色っぽく見えます。参加者の目の前で実際に色を変え、変化の不思議を楽しみました。参加者は「なんでこんな風に色が変わるんだろう？」と、不思議そうに自分達でも色変え実験を試していました。終了後には、「自分でも羽を拾って集めてみたい」といった感想もいただき、羽の不思議や面白さに気付くきっかけを提供できたようでした。

(植物研究室 櫻井幸枝)

(動物研究室 鳥居憲親)

6 長岡歴史学習教室

事業概要

事業の目的は、①科学博物館が所蔵する、本物の歴史資料(古文書、陶磁器、古銭など)にふれながら、歴史研究の進め方や楽しさを学ぶこと。②科学博物館や郷土史料館、図書館などの利用の仕方を知り、一人で歴史の調べ学習ができる力を楽しく身につけることです。

対象は、長岡市内在住の小・中学生20人程度で、保護者や一般参加もいっしょに参加していただきました。

今年度は児童17名と保護者が参加しました。

実施内容

実施日	学習内容	参加人数
6月12日	昔の物にさわる	21名
6月19日	長岡のまちを探検する	20名
6月26日	昔の字を読み書きする	17名
合計 58名		

第1回 「昔の物にさわる」

①縄文土器・②石器(石鏃・黒曜石・玉髄)、③ワラグツ・④ユタンボ・⑤エンフィールド弾・⑥四斤山砲弾・⑦古銭・⑧兜・⑨刀袋に実際にふれながら、どんなことがわかるのか、どんな面白さがあるのか、どのようにしたら疑問について調べることができるのかなどを説明し、課題の設定や解決の方法、歴史研究のやり方や目的、調べて知ることの楽しさについて学習しました。

第2回 「長岡のまちを探検する」

科学博物館～長岡工業高等学校～興国寺～八幡神社～千手町旧三国街道～旧雪にお～科学博物館。地図をみながら東西南北の見つけ方、水の流れと土地の起伏、植生と季節性、自然環境と人の関わり、小林虎三郎のこと、雁木と雪国のくらし、三国街道と交通・経済流通、太陽と時間帯、千手八幡社境内の道標・燈籠・狛犬・鳥居などに注目しながらフィールドワークを実践しました。

第3回 「昔の字を読み書きする」

直江兼続・小林虎三郎・河井継之助・三島億二郎の筆跡を研究。その他、貨幣・明治期教科書・古文書に実際に触れ、重さや質感を確認。歴史学は人との関りを中心に据えた人文科学の1分野であり、歴史博士になるためには人に関心を持つこと。すなわち友だちをたくさん作ることが大切であるというメッセージを伝えました。

(歴史研究室 広井 造)

7 移動水族博物館

事業概要

水族博物館で飼育している生物と飼育設備を小学校へ貸し出し、児童が実際に飼育体験する事業です。ただ見るだけではなく、自分たちで水温の管理、水槽の清掃・水換え、餌やり、観察をする体験を通して、生物を慈しむ心や生物に対する接し方、観察力の育成を図ることを目的としています。

日程と参加者

学校名	期間	参加児童数
栃尾東小学校	10月5日～11月2日	44人

実施内容

①準備作業

横 90cm、縦 45cm の水槽 1 本を用意し、照明器具などの設備の搬入、設置を児童と一緒に行いました。

その後、水族博物館の飼育担当者から飼育する生物の特徴、適する水温の状態や水槽の掃除、水の換え方など「水生生物を飼育するために必要なこと」についての説明を行います。人工海水の作り方の説明と実演も行いました。

②生物の搬入

いよいよ飼育生物の搬入となります。当日、児童たちは喜びながら搬入を見守っていました。

餌の種類及び与え方についての説明を行い、飼育方法についての質問に回答します。清掃、餌やり、水換え、水温測定などの作業を皆で分担して飼育を行うことになっており、以後撤収まで児童たちによる水生生物の飼育が始まります。

③講話

今年度も、生き物の命の大切さや飼育の心得にちなんだ講話を行いました。これによって飼育生物への理解がより深まったと感じました。

④撤収

水槽の周りは飾りつけが行われており、大切に世話をしていた様子が伺えます。児童たちは毎日世話をしている生物たちがいなくなるのは寂しいようです。

今回も、児童たちが生物の飼育を通して多くのことを学ぶ様子が見てとれました。今後も学校側の意見や要望を踏まえ、継続して実施していきたいと思えます。

（寺泊水族博物館 田中裕也）

8 バスで水族館ドキドキ体験

事業概要

児童たちに水族博物館の水生生物の解説や体験を通して、長岡の自然環境や水生生物への興味や理解を深め、はぐくむ機会を増やしてもらうため、寺泊支所所有のマイクロバスで小学校から水族博物館との間を送迎する事業です。

日程と参加者

学校名	月日	参加児童数
新組小学校	6月3日	14人
神田小学校	6月8日	23人
柿小学校	6月15日	15人
東谷小学校	6月15日	20人
柿小学校	6月17日	18人
信条小学校	6月22日	16人
上通小学校	6月24日	15人
中之島中央小学校	7月5日	58人
新町小学校	7月6日	26人
新町小学校	7月8日	25人
日吉小学校	7月15日	13人
栃尾南小学校	7月20日	27人
上通小学校	9月7日	7人
浦瀬小学校	9月9日	28人
石坂小学校	9月14日	8人
深沢小学校	9月21日	11人
与板小学校	9月28日	27人
福戸小学校	9月30日	28人
与板小学校	10月5日	27人
中島小学校	10月12日	21人
前川小学校	10月28日	23人
新町小学校	11月2日	28人
新町小学校	11月4日	26人
前川小学校	11月9日	23人
合計 17校 24回 527人		

実施内容

各小学校とも水族博物館到着が午前 10 時前後となるように出発しました。感染症対策として極力職員との接触を避け、探検ノートをお渡しして館内を自由に見学してもらいました。

最後はバスへ乗り込み学校へと戻ります。水族博物館を出発する時間は給食の時間に間に合うようにする学校が殆どでしたが、学校によっては寺泊地域の見学を続けて実施するところもありました。

（寺泊水族博物館 田中裕也）

9 縄文出前授業・体験学習

事業概要

長岡の縄文文化への興味・関心を育てるため、馬高縄文館の学芸員・専門員等が市内小学校へ出向き、実物資料を用いた授業や縄文に関する体験学習を実施しました。授業では、できるかぎり各小学校の地域の遺跡を紹介し、また体験学習では、教員と相談しオーダーメイドのプログラムを作成して実施する場合もありました。

実施内容

募集対象は小学校6年生から中学生までとしましたが、クラブ活動や複式学級等で小学校4・5年生の参加もありました。5月末に初めて実施して以降、7・8月の利用が最も多く、令和3年度全体では延べ25校45件1,133人の利用がありました。

①縄文出前授業

No.	タイトル	利用実績
1	しらべてみよう ～火焰土器と長岡の縄文時代	5校5件 81人
2	くらべてみよう ～縄文時代と弥生時代	1校1件 38人
	オーダーメイド授業	1校12件 328人
合計 7校 18件 447人		



バスで行く科博見学・体験学習



移動水族博物館

②縄文出前体験学習

No.	タイトル	利用実績
1	縄文土器をつくってみよう	7校12件 357人
2	縄文時代のまが玉をつくってみよう	4校5件 112人
3	弓矢をつかってみよう	1校1件 31人
4	黒曜石をつかってみよう	0校0件 0人
5	さわってみよう縄文時代の道具	3校4件 82人
	オーダーメイド体験学習	3校5件 104人
合計 18校 27件 686人		



縄文出前授業・体験学習

今年度も感染症対策を実施したため、さまざまなことが制約されましたが、参加者は生き生きと活動してくれました。ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

（馬高縄文館 野水宏美）

児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」「自然科学写真展」

事業概要

児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」「自然科学写真展」は、新潟県の児童・生徒が作った昆虫標本／岩石・化石標本／自然科学写真の各作品を集めて行う自然科学展示会です。標本作りや写真撮影の活動を通して自然科学の基礎となる「自然を記録し、整理し、科学的に考察する力」の育成を目指しています。

作品は各分野の専門の審査員が審査し、最も優れた作品には長岡市立科学博物館長賞が、各分野で優れた作品には金・銀・努力賞が授与されます。また初めて出品された作品のうち特に高い意欲の見られる作品には新人賞

が授与されます。すべての作品に審査員が個別にコメントし、技術向上や研究のヒントを提案しています。

令和3年度出品概況

	作品数	出品者数		
		小	中	高
昆虫標本展	54	50	5	0
岩石・化石標本展	16	6	9	1
自然科学写真展	19	12	7	0
計	89	68	21	1

入賞作品一覧（銀賞以上および新人賞／出品者名は省略）

昆虫標本展	佐渡市立二宮小学校	6年	佐渡のちょう	金賞
	長岡市立四郎丸小学校	4年	アリ標本 2021	金賞
	上越市立東本町小学校	6年	直海浜海岸の昆虫 ～植物が生えている場所と砂浜での調査比較～	金賞
	長岡市立南中学校	1年	糞虫が好む場所	金賞
	新潟大学附属長岡小学校	2年	4～9月のこん虫・色がきれいなこう虫を中心に	銀賞
	十日町市立西小学校	1年	十日町市・津南町に生息するトンボ標本	銀賞
	柏崎市立田尻小学校	3年	柏崎と柏崎周辺のチョウ	銀賞
	柏崎市立田尻小学校	1年	ぼくのチョウ、トンボコレクション	銀賞
	上越教育大学附属中学校	1年	クワガタムシの樹液採集 part 3	銀賞
	新潟大学附属長岡小学校	1年	セミのう化のかんさつ	新人賞
岩石・化石標本展	新潟県立津南中等教育学校	5年	南魚沼市産出の植物化石の考察	金賞
	上越教育大学附属小学校	3年	Quiz Rock ～クイズで学ぶ糸魚川の石～	金賞
	柏崎市立枇杷島小学校	5年	柏崎の海岸から上流へ ～岩石の標本パート3～	銀賞
	糸魚川市立青海中学校	1年	糸魚川の海岸の石の種類	銀賞
	上越教育大学附属中学校	2年	糸魚川ユネスコ世界ジオパークの魅力 ～多様性を誇る石とSDGs～	銀賞
	上越教育大学附属小学校	6年	糸魚川地域の海岸の石英たち（特徴と成り立ち）	新人賞
自然科学写真展	佐渡市立八幡小学校	6年	6年間のまとめ 海の生き物図鑑	科学博物館長賞
	柏崎市立枇杷島小学校	6年	野になる実の観察 ～柏崎刈羽地区を中心にした3年間の写真記録～	金賞
	柏崎市立枇杷島小学校	3年	ヒマワリのかんさつ	銀賞
	長岡市立大島小学校	2年	セミの羽化	新人賞

令和3年度は11月2日(火)から7日(日)にかけて作品展示会を開催し、延べ613人が来場しました。最終日には各分野の専門の審査員や学芸員から出品者とその家族・先生方を対象に「出品者向け講評会」を実施し、特筆すべき作品の紹介や次の作品作りに向けた総括的なアドバイス、質疑応答等を行いました。

昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症流行のため

様々な活動が制限された1年でしたが、全体として出品数は増加し、また継続出品された作品には確実なレベルアップが見られました。2年、3年と活動が続けることによって経験が蓄積し、個性豊かな作品を作ることができるようになりますので、今後もじっくりと自分の興味を追求してほしいと思います。

(昆虫研究室 星野光之介)

ネイチャーセミナー

事業概要

令和2年度から新しくスタートした事業です。本事業では「生きものを知るたび、“もっと知りたい”が見つかる」をキーメッセージに、生きものの生態や不思議を紹介する講座（生きものガイド）や講演会（ネイチャートーク）を開催しています。参加者の自然への関心と探究心を育むことを目的としており、特に「自然を観察し疑問を発見する力」の養育を目標にしています。

本年度は雨天により中止となった野外プログラムが多くなってしまいましたが、実施できたプログラムでは活動を通じて、参加者の生物に対する興味や理解を深めることができました。また本年度からは、新型コロナウイルス対策として、ネイチャートークではオンライン配信もスタートさせました。今後も生きものたちの不思議を楽しく学べるよう、様々な形式の講座を企画していきたいと思っています。

実施プログラムと参加者数

生きものガイド			
プログラム	形式	実施日	参加者数(定員)
観察しよう！信濃川の自然	野外観察会	4月29日(祝)	雨天のため中止
会えるかな？森のカエルたち	野外観察会	6月19日(土)	22人(10組)
フクロウってどんな鳥？	室内講座	8月7日(土)	9人(10名)
キノコの一生-その生き方を探る-	室内講座	9月26日(日)	5人(15名)
木の実観察会	野外観察会	10月17日(日)	雨天のため中止
自然とあそぼう	自然体験	10月23日(土)	雨天のため中止
ネイチャートーク			
トークテーマ	講師	実施日	当日参加者数(定員)
知ってる？ウミウシのくらし-ウミウシたちのふしぎへご招待-	上越市立水族博物館うみがたり サブリーダー 須藤耕佑	7月22日(祝)	24人(30名)
オンライン配信			視聴回数223回
ゴイサギを通して見る昼の世界と夜の世界	只見町野生動物保護監視員 遠藤奈緒子	11月14日(日)	10人(30名)
オンライン配信			視聴回数212回
合計505人			

※「会えるかな？森のカエルたち」は寺泊水族博物館と共催
※オンライン配信は各回とも講演会終了後1ヶ月間の限定配信

生きものガイド

＜フクロウってどんな鳥？＞

夜行性の鳥、フクロウ。名前はよく聞かし、グッズやキャラクター化されることも多い鳥だけれど、その姿をじっくり観察できる機会はあまりありません。そこで、博物館の剥製や骨格標本を用いて、市内に生息するフクロウを見比べたり、他の猛禽類との体の構造の違い等を観察しました。また、講座の中で参加者にはフクロウの羽とタカの羽の触り比べもしてもらいました。模様や色合いは似ている両者の羽ですが、実際に触ってみると、「フクロウの羽はフワフワ！」「タカの羽はかたい！」と、触り心地の違いを実感してもらえたようです。この他、トラフズク等のミミズクタイプのフクロウの耳のように見えるものが、羽角（うかく）という羽であることも、

参加者には驚きだったようです。

ネイチャートーク

＜知ってる？ウミウシのくらし-ウミウシたちのふしぎへご招待-＞

丑年の海の日にあわせて、当館にとっては初となる“ウミウシ”をテーマにした講座を開催しました。外部からウミウシの専門家を招き、ウミウシの体のつくりや基礎生態等をじっくり解説してもらいました。参加者にはウミウシが貝の仲間だということも驚きだったようで、「ウミウシは全く知らない生物でしたが、大いに興味が湧いた」、「おもしろかった！実際に海に行ってウミウシを探してみたい」といった感想が数多く寄せられました。

＜ゴイサギを通して見る昼の世界と夜の世界＞

2021年秋に発表された全国鳥類繁殖分布調査の中で、この20年間で数が激減したことがわかったゴイサギ。昼夜で主要な採餌場所が変わること等、ゴイサギの生態を再確認しながら、減少理由についてみんなで考えてみました。長岡市では大規模コロニーもあったことから害鳥としての印象が強いゴイサギでしたが、個体数を減らしている現状を知ったことで、参加者からは「ゴイサギのイメージが変わった」という声もあがりました。



キノコの一生-その生き方を探る-



知ってる？ウミウシのくらし

（植物研究室 櫻井幸枝、動物研究室 鳥居憲親）

令和3年度事業報告

1 利用者数

月	科学博物館					長岡藩主牧野家史料館					入館者 月計	イベント 参加者		資料照会		利用者 数合計
	個人入館		団体入館		入館者 合計	個人入館		団体入館		入館者 合計		大人	子供	大人	子供	
	大人	子供	大人	子供		大人	子供	大人	子供							
4	776	356	0	0	1,132	263	54	0	0	317	1,449	40	111	73	4	1,677
5	534	190	0	0	724	133	29	0	0	162	886	85	190	80	7	1,248
6	627	126	20	71	844	134	28	7	0	169	1,013	90	396	91	34	1,624
7	1,149	346	29	70	1,594	220	41	29	67	357	1,951	92	204	87	27	2,361
8	1,288	650	0	22	1,960	248	47	0	0	295	2,255	53	218	66	36	2,628
9	572	155	21	77	825	133	24	0	4	161	986	55	256	68	22	1,387
10	1,764	426	0	227	2,417	313	45	0	164	522	2,939	189	449	85	31	3,693
11	1,320	480	0	188	1,988	406	108	48	0	562	2,550	379	699	107	36	3,771
12	856	287	0	37	1,180	250	37	0	0	287	1,467	65	40	74	12	1,658
1	629	235	0	0	864	149	19	0	0	168	1,032	36	154	55	10	1,287
2	1,014	302	0	0	1,316	239	16	0	0	255	1,571	26	62	46	9	1,714
3	1,429	337	0	0	1,766	306	55	0	0	361	2,127	23	0	69	7	2,226
累計	11,958	3,890	70	692	16,610	2,794	503	84	235	3,616	20,226	1,133	2,779	901	235	25,274

※新潟県の特別警報発令に伴い5月15日から6月14日まで、及び9月3日から16日まで休館

2 常設展示

エリア		展示内容
市民ホール		ヒドロタマリス属海牛親子生体復元模型、 長岡市地図サークル、文化財検索モニター※
展示室	長岡のおいたち (考古・文化財・歴史)	発掘された長岡、旧石器・縄文・弥生・古墳・古代(飛鳥・奈良・平安)・中世(鎌倉・室町・安土桃山)、中世(戦国)・近世(江戸)・近現代、長岡の教育、その他(歴史年表)
	長岡の大地のおいたち(地学)	長岡が海だったころ、海牛のいた海、海から陸へ、 地震地盤災害と地殻変動
	長岡のすがた - 自然と暮らし - (植物・動物・昆虫・民俗)	長岡の自然 - 山間部・平野部・海岸部 -、地域で生まれる生き物たちの変異、 長岡の暮らし - 養蚕・麻・稲作・さまざまな漁のかたち - ※
	重要文化財・受贈資料	東北日本の積雪期用具附改良形用具、室谷洞窟遺跡出土品、長岡瞽女、 小瀬ヶ沢洞窟遺跡出土品、牧野恭次氏収集シダ植物標本、 村山 均貝類コレクション、南極の岩石、ユキヒョウ

※文化財検索モニター等の一部展示は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用を休止

3 特別展・企画展、関連イベント

タイトル	会期(開催日数)	入場者数
「長岡藩主牧野家ゆかりの端午の節句展」(牧野家史料館)	4月14日～5月17日(29日)	352人
科学博物館開館70周年記念展示 「長岡市立科学博物館70年のあゆみ」前期、後期	5月1日～6月27日(25日) 7月6日～8月31日(56日)	4,778人
開館70周年記念品配布	8月1日・2日・3日	202人
企画展「第11回 長岡藩主牧野家の至宝展」	10月1日～10月31日(29日)	2,417人
企画展「如是蔵博物館資料展」	11月19日～12月26日(36日)	1,724人
「長岡藩主牧野家ゆかりのお正月展」(牧野家史料館)	12月7日～1月18日(33日)	294人
企画展「長岡藩主牧野家ゆかりのおひなさま展」	2月18日～3月13日(22日)	1,647人

※新潟県の特別警報発令に伴い5月15日から6月14日まで、及び9月3日から16日まで休館

4 各研究室主催の普及活動

研究室	事業名	実施日	会場	参加者数
植 物	草笛@長谷川邸	9月3日	長谷川邸	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	キノコを調べる会	10月2日	東山ファミリーランド 自然観察林	43人
	キノコの展示会	10月3日	中央公民館陶芸工作室	48人
動 物	市民探鳥会	4月10日、5月8日、 6月12日、10月9日 ※7月、8月、11月は 雨天のため中止 ※9月は新型コロナウイルス 感染拡大防止のため中止	千秋が原ふるさとの森公園 周辺河川敷	80人 (各回17、21、23、19、)
	冬鳥さよなら探鳥会	3月19日	信濃川	雨天のため中止
歴 史	長岡の歴史を語る会	10月3日、11月14日、 12月5日、1月23日、 2月6日、3月6日 ※9月は新型コロナウイルス 感染拡大防止のため中止	中央公民館講座室	141人 (各回26、23、24、22、 23、23)
文 化 財	長岡市郷土民俗芸能公演会	10月24日	アオーレ長岡	新型コロナウイルス感染 拡大防止のため、無 観客開催
	古代のお金づくりに挑戦	11月28日	和島保健センター	15人
受 付 ス タ フ	かはく夏のミニクラフト	7月28日、8月18日	市民ホール	30人
	かはくミニクラフト	4月21日、11月17日、 12月15日、3月16日 ※5月～10月、1月、2月は、 新型コロナウイルス感染 拡大防止のため中止	市民ホール	44人 (各回10、16、10、8)

5 熱中！感動！夢づくり教育事業

- (1) 博物館の先生がやってきた（詳細は5ページ）
実施件数延べ46件、参加者数延べ1,577人
- (2) バスで行く科博見学・体験学習（詳細は5ページ）
実施件数1件、参加者数延べ26人
- (3) みんなで作ろう 縄文の森の昆虫図鑑（詳細は6ページ）
実施件数5回、参加者数延べ124人
- (4) 縄文体験教室（詳細は6ページ）
実施回数3回、参加者数延べ26人
- (5) 発見の部屋—ミュージアム・ラボ—（詳細は7ページ）
実施回数2回、参加者数延べ35人
- (6) 長岡歴史学習教室（詳細は7ページ）
実施回数3回、参加者数延べ58人

- (7) 移動水族博物館（詳細は8ページ）

実施件数1件、参加者数延べ44人

- (8) バスで水族館ドキドキ体験（詳細は8ページ）

実施件数24件、参加者数延べ527人

- (9) 縄文出前授業・体験学習（詳細は9ページ）

実施件数45件、参加者数延べ1,133人

6 児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」

「自然科学写真展」（詳細は10ページ）

会 期：11月2日～11月7日（6日間）

会 場：中央公民館講座室

出 品：89件

入場者数：613人

7 ネイチャーセミナー (詳細は11ページ)

実施回数：5回、参加者数延べ505人

8 長岡市内の小・中学校等への総合学習支援

- ・川崎小学校4年生、総合学習「150年を迎える川崎の森を守ろう」川崎の森の木々の特徴と森の成り立ちについて、8月27日、11月10日、櫻井主査
- ・東中学校1年生、総合学習「信濃川の自然環境」、4月28日、星野学芸員

9 中学生の職場体験受け入れ

受け入れ件数10件、受け入れ生徒数延べ20人

科学博物館：3件7人

悠久山小動物園：6件9人

寺泊水族博物館：新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

馬高縄文館：1件4人

10 依頼による普及活動 (長岡市内の小・中学校からの依頼を除く)

- ・学び座・せきはら「長岡藩主牧野家のルーツーなぜ長岡藩主になられたのかー」講師、6月10日、広井総括副主幹
- ・長岡きのこ同好会植物研修会「東山の植物とキノコ」講師、7月11日、櫻井主査
- ・中之島公民館高齢者講座「里山歩き」講師、10月27日、櫻井主査
- ・新潟県野鳥愛護モデル校探鳥会講師、4月24日、5月15日、鳥居主任
- ・国営越後丘陵公園里山フィールドミュージアム春のバードウォッチング講師、5月2日、鳥居主任
- ・寺泊地域探訪会「秋のシーサイドバードウォッチング」講師、10月2日、鳥居主任
- ・マリンピアカレッジ「鳥から見た海の世界」講師、11月27日、鳥居主任
- ・日本野鳥の会東京交流会 (オンライン) 「講演：内陸都市でのイソヒヨドリの生息環境」、12月15日、鳥居主任
- ・まちなかカフェ「学芸員のお仕事ーようこそ！長岡科博のバックヤードへー」講師、令和4年2月18日、鳥居主任
- ・長岡野鳥の会オンライン講座「講演：潜水する鳥たちの体の特徴」、令和4年3月13日、鳥居主任
- ・昆虫観察会講師、5月15日、6月19日、7月24日、9月18日、星野学芸員
- ・虫の会 (昆虫観察会) 講師、8月8日、星野学芸員
- ・長岡市教育センター研修講座「長岡の自然Ⅰー越路地域の地層ー」講師、5月19日、加藤学芸員
- ・長岡学第8回「長岡の縄文文化と火焰土器」講師、7月8日、新田主査

- ・和島公民館いきいき大学「八幡林遺跡を身近に感じようー木簡体験ー」講師、7月29日、丸山主査
- ・和島観光ボランティアガイド講演会「八幡林遺跡とその後」講師、令和4年3月12日、丸山主査
- ・てらスポ！ウォーキング大会現地講師、9月19日、加藤主査
- ・まちなかカフェ「こりゃ凄い！わっぱっぱー長岡市無形文化財「寺泊山田の曲物」ー」講師、12月6日、加藤主査

11 調査研究・資料収集・学会・協議会等への出席 (市区町村の記載がないものは長岡市内で実施)

- ・加茂市史編さん編集委員、加茂市、任期：平成3年4月1日～令和4年3月31日、小熊館長
- ・信濃川水系魚野川圏域河川整備計画第2回変更に係る流域協議会、令和4年2月21日、小熊館長
- ・トチバニンジンの種子散布者に関する調査、小千谷市ほか、5月～11月、櫻井主査、鳥居主任
- ・新潟県環境審議会委員 (オンライン)、任期：令和3年6月1日～令和5年5月31日、櫻井主査
- ・新潟県野生生物保護対策検討会 (植物分科会) 委員 (オンライン)、任期：令和3年9月17日～令和6年9月17日、櫻井主査
- ・新潟県絶滅危惧コケ植物イトゴケ・キヨスミイトゴケ調査、加茂市、11月8日、櫻井主査
- ・新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里運営検討会委員、新潟市、任期：令和元年9月17日～令和4年度、鳥居主任
- ・新潟県愛鳥センター資料調査、新発田市、5月12日、鳥居主任、櫻井主査
- ・大河津分水路河口沿岸域の海浜性生物調査とそれを基にした海浜生物学習プログラムの作成 (海の学びミュージアムサポート「海の学び調査・研究サポート」採択事業)、6月～12月、鳥居主任、櫻井主査
- ・サギコロニー問題地域住民説明会、7月19日、鳥居主任
- ・日本鳥学会2021年度大会 (オンライン)、9月17日～20日、鳥居主任
- ・スナガニの夜間調査 (マリンピア日本海との協同調査)、新潟市、9月21日、鳥居主任、櫻井主査
- ・バードリサーチ鳥類学会2021 (オンライン)、「比べてみるとおもしろそう?! イソヒヨドリの食性」、12月18日、鳥居主任
- ・河川環境保全モニター、任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日、星野学芸員
- ・新潟県野生生物保護対策検討会 (昆虫分科会) 委員 (オンライン)、任期：令和3年5月12日～令和6年5月12日、星野学芸員
- ・津南町埋蔵文化財センター館外研究員、任期：令和3年6月5日～令和7年3月31日、新田主査

- ・令和3年度文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会（第67回）、10月18日、新田主査
- ・重要文化財（建造物）等防災設備整備事業指針策定に係る説明会、12月14日、新田主査
- ・第56回全国史跡整備市町村協議会大会（オンライン）、10月6日、丸山主査
- ・新潟県歴史資料保存活用連絡協議会研修会、6月14日、加藤主査、山田学芸員
- ・大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年記念6館リレー展示に関する意見交換会、燕市ほか、9月14日、加藤主査、櫻井主査、鳥居主任
- ・科学博物館民俗資料調査・整理作業、9月21・22・24日、加藤主査

12 館外施設への展示協力

- ・企画展「縄文土器入門～縄文土器の特色をさぐる」、会場：馬高縄文館、会期：4月10日～6月27日、入場者数：2,119人、小熊館長、新田主査、小林主査
- ・特別展「信濃川流域の縄文草創期・早期の土器文化」、会場：馬高縄文館、会期：9月25日～11月23日、入場者数：1,028人、小熊館長、新田主査、小林主査
- ・企画展「縄文石器入門～縄文石器の特色をさぐる」、会場：馬高縄文館、会期：12月11日～令和4年3月13日、入場者数：501人、小熊館長、新田主査、小林主査

13 博物館実習の受け入れ

期間：8月4日～10日（7日間）

会場：中央公民館304教室等

実習生の所属：新潟大学2人、長岡造形大学2人、明星大学1人、三重大学1人

14 出版物

(1)長岡市立科学博物館報（NKH）106号 550部

(2)長岡市立科学博物館研究報告 第57号 350部

- ・星野光之介・山屋茂人：三国峠（新潟県湯沢町）の甲虫相(1)
- ・笹川一郎・加藤正明：新潟県産脊椎動物化石目録
- ・小熊博史・立木宏明：信濃川流域における細石刃石器群関係資料(2)－三条市藤平遺跡の石器群－
- ・新田康則：長岡市川口地域で採集された縄文時代草創期後半の土器群
- ・丸山一昭：下ノ西遺跡土器廃棄土坑SK01出土土器について
- ・森 貴教・村田友輝・古川 貢：姥ヶ入南遺跡出土鉄斧のX線CT調査
- ・加藤由美子・足立照久：長岡市寺泊山田の曲物製作技術(3)
- ・広井 造：旧長岡藩医柳野 直の研究（その一）

15 外部刊行物等への執筆

- ・「星野嘉保子の碑」とその周辺、長岡郷土史第58号、pp.145-154、長岡郷土史会、新田主査
- ・「加茂の地形・地質～歴史の舞台」「縄文時代の加茂」、加茂市史通史編上巻、pp.2-13、26-40、加茂市、小熊館長

16 資料の受贈（敬称略）

歴史資料

- ・森野郁子氏旧蔵資料 30点
神戸市 森野 郁子
- ・長岡藩御用絵師辰巳教祇春光画ほか 2点
長岡市 佐山 富栄
- ・旧長岡藩士楨内蔵助家写真帳ほか 4点
東京都 山岸 一雄
- ・牧野忠精書「信」 1点
長岡市 佐山 富栄
- ・酒井正二書状ほか 3点
東京都 佐藤 和男

考古資料

- ・長岡市内遺跡採集考古資料 1式
燕市 山田 洋三

文化財資料

- ・下屋敷遺跡 土師器 無台碗 1点
小千谷市 浅田 道夫

17 委員会・審議会の開催

(1) 長岡市馬高・三十稲場遺跡整備活用委員会

委員（敬称略）

- ・学識経験者
安藤 孝一 小野 昭 小林 達雄
宇賀田和雄
- ・市民代表
内山 弘 笹川 文雄 星野 紀子
渡辺 千雅
- ・オブザーバー
新潟県教育庁文化行政課

委員会の開催

第32回 令和4年2月15日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面評決

(2) 長岡市文化財保護審議会

委員（敬称略）

- 飯島 康夫 田中 和代 鳴海 忠夫
西田 泰民 長谷川一夫 羽鳥 仁一
平山 育男 深澤三枝子 星野 紀子
三富 良晴

委員会の開催

第1回 8月19日 教育委員会会議室

第2回 令和4年2月17日 教育委員会会議室

18 長岡市立科学博物館 OFFICIAL FACEBOOK

更新回数: 98回

掲載記事: 植物研究室36件、動物研究室19件、
文化財研究室9件、全体共通34件

19 所管した共催・後援事業

(1) 警女妙音講と警女唄演奏

主催: 警女唄ネットワーク

会期: 4月24日

場所: 唯敬寺

(2) 親子で遊べる昆虫観察ウォーク (初級編・中級編)

主催: 昆虫はかせネットワーク

会期: 5月28日～11月13日

場所: うまみち森林公園ほか

(3) 新潟大学旭町学術資料展示館企画展

「蘇る山古志の民具」

主催: 新潟大学旭町学術資料展示館

会期: 9月18日～10月24日

場所: 新潟大学旭町学術資料展示館

(4) 秋の警女唄演奏会

主催: 警女唄ネットワーク

会期: 10月16日

場所: アトリウム長岡

(5) 映画「陶王子 2万年の旅」上映会

主催: 長岡アジア映画祭実行委員会!

会期: 10月30日

場所: アオーレ長岡

(6) 長岡警女・蔵開き門付け

主催: 警女唄ネットワーク

会期: 令和4年1月10日

場所: 長岡市大手通周辺及びGALLERY沙蔵

(7) 令和3年度冬季企画展「発掘!新潟の遺跡 2021」

主催: 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

会期: 令和4年1月14日～3月27日

場所: 新潟県埋蔵文化財センター

令和3年7月31日付け退職

学芸員 星野光之介 (昆虫研究室)

学芸員 加藤 正明 (地学研究室)

文化財係長 鳥居 美栄 (文化財研究室)

統括主査 田中 靖 (文化財研究室)

主査 新田 康則 (文化財研究室)

主査 小林 徳 (文化財研究室)

主査 丸山 一昭 (文化財研究室)

主査 加藤由美子 (文化財研究室)

主査 永沢 早苗

主査 山賀 和也 (文化財研究室)

会計年度任用職員 中山佐和子

会計年度任用職員 茨木美代子

会計年度任用職員 八子 幸栄

会計年度任用職員 鎌田美穂子

会計年度任用職員 田中 智子

会計年度任用職員 佐藤美恵子

会計年度任用職員 恩田美穂子

会計年度任用職員 村山 葵衣

令和3年4月1日付採用

20 名誉館長 特別授業・講演等 (市区町村の記載

がないものは長岡市内で実施)

- ・特別授業「長岡藩主牧野家と日本の歴史」、12月1日、新潟大学附属長岡小学校

21 職員名簿

名誉館長 牧野 忠昌

館長 小熊 博史 (考古研究室)

館長補佐 神保亜由美

総括副主幹・学芸係長

広井 造 (歴史研究室)

主査 櫻井 幸枝 (植物研究室)

主任 鳥居 憲親 (動物研究室)

学芸員 山田 祐紀 (民俗研究室)

N K H（長岡市立科学博物館報）No.106

令和4年3月31日発行

編集・発行 長岡市立科学博物館

〒940-0084 長岡市幸町2丁目1番1号

印刷 株式会社 中央印刷

〒940-0041 長岡市学校町1-9-21